

# 飛耳長目

通巻171号 平成30年2月1日発行

## 「修身教授録」探求（第三百二十四回） 一「現代娘読本」

森信三

山なかになしくもあるか  
疲れたる我の背を押す子ども二人

赤彦

これも数少ない赤彦がわが子を詠んだ歌の一つといえましょう。もっともこの場合は、前に挙げた受験勉強中のわが子の歌のように、直接わが子を詠んだわけではなく、直接には自己を詠みつつ、しかもその後自然とわが子のことを詠んだという結果になっているという相違があります。この一首の中では、やはり「かなしくもあるか」という一句が中心であり、そしてそれは直接には、自分の体力の衰えを歎く悲しみなことはいまでもありませんが、同時にそれには自分の背中を押してくれている二人のわが子への、感謝と愛惜とがこめられているといえましょう。そしてそのために「かなしくもあるか」と仮名書きにして「悲し」とも又「愛（かな）しく」とも書かなかつたゆえんでしょう。

### ■菊地寛氏の「現代娘読本」について

あなた方の中にもすでに読んでいる人が相当あるようですが、今大阪毎日新聞に連載中の菊地寛氏の「現代娘読本」というものは、わたくし仲なかの出来映えであると思います。そもそもああいう種類の事柄は、わかいい女性にとっては、ある意味では非常に大切な事柄でありながら、今日まで誰も正面からこれを教えてくれる人がなかったこととて、わたくし

としても大へん結構なことと思ひ、毎日興深く読んでいたのです。たぶん完結したら、後でまた書物になって出るだろうと思ひますが、もしそうなたとしたら、現在読んでいない人々も、ぜひ一読されるがよいと思ひます。もちろん難を申せば、無いわけでもないでしょう。例えばあれを書かれた対象は、百貨店の女店員、会社の女事務員やタイピスト辺から、下はカフェの女給あるいはダンサー、時には料理店の仲居などに至るまで、その範囲に入らるるようであります。そこで今あなた方のように教育界へ入ろうとしている人、ことにまだ卒業もせず、随つて実社会へも出ていない生徒の身分にあるあなた方には、細かい節々の点では、あるいは無くもがなとも思われ、あるいはこの辺はもう少し何とかならぬものかと思われる節々が、部分的には無いわけでもないのです。即ちこれを一言で申せば、只今も申すように、広範囲にわたる職業婦人を含めて、それを対象に書かれたものから、職業とてはいい条、全然一般的ないわゆる職業婦人とは違つた教育者、とくにまだその卵であるあなた方に対しては、やや調子が低くて、時としてほ卑俗にわたる箇所もないとは言えないようであります。

### ■女性の必ず学ぶべきことがある

しかしそれにも拘わらず、わたくし一

個の考えとしては、現在ああした知識は、あなた方のようなわかい女の人、とくに未婚の娘さん方には、どうもある程度必要だと思ふのであります。否ある意味では、全然外で働かない娘さんたちでも、一おうは心得ているべき節々が少なくないと思うのです。そもそも男性に対する女性としての用心警戒ということとは、ある意味では女性として最も大切な知識と言つてよいでしょう。ところが、それにも拘わらず事実においては、事柄の性質上、あなた方のような若い人々が、これらの点に関して懇切に教えられる機会というものは、非常に少ないのであります。両親などにしても、わが子とはいいい条、面と向つてはついに口に出しては言いかね、また私ども教師としましては、つい教壇においては触れにくいような種類の事柄が少なくないのであります。だがそれにも拘わらず、事実として、女性が自分の一生を生かすか殺すかというような岐れ路になる事柄も少なくないのであります。これに比べればその他の知識は、どんなものでも結局は、枝葉末節と言つてよいほどであります。ところが前にも申すように、事柄の性質上親や教師も、この種のもつとも大切な心掛けについて、あまり立入つてつぶさには話さないのが常であつて、おそらくあなた方として、ご両親からこの種の事柄に関する、充分に教えられている人は、まず

はあるまいと思ふのであります。そこで、こうした種類の事柄に対する心構えというものは、もし真に親切心を以つて書かれた書物があつたとしたら、それによるのが一ばん良いわけでありませう。この点については、多少性質の違う処があるかも知れませんが、いわゆる性教育などということも、色々と論議されているようですが、結局は適当な書物を与えて読むべきでしょう。ところが、いざ適当な書物ということになりますと、この際にはそれがなかなか容易でないのであります。いわんや男性に対する女性としての用心警戒の心得を、社会の全体を見渡して適切に書いたものとなると、おそらくは絶無といつてもよいでしょう。

そこでこの菊地寛氏の「現代娘読本」は、かような意味からして、まずこれまでに無かつた書物といつてよいかと思ひます。あの人が如何なる問題を取り上げていられるかは、もちろん小説家として人生の諸相を眺めている事ゆえ、それが基礎になつている事は申すまでもないこととでしよう。しかしあの人に、かような問題に関して執筆の決意を固めさせたのは、察するに最近あの人々が新聞の「女性相談欄」を受持たれたことによつて、今さらのようにわかい女性の男性に対する無智と、またこれに対する不良な男たちの横暴とを、黙視するに忍びない点に基

づくものと見てよいでしょう。そもそも女性というものは、男子とくに不良の男子に対しては、じつに無智な弱味をもつていると言えましよう。もつともこうした無智も、その女性が世の中へ出なければ、それはど大した問題も起こさずに済むとも言えましよう。しかしひとたび世間へ出て、職業戦線に加わるとなると、実に危険の真只中に身を曝らすわけでありませう。「現代娘読本」の中には、わかい女性が、男子に対していかに無智かということ、男の見分け方を知らないという点から述べていられるのです。

### ■男性のある態度から

かりに今一人のタイピストなり女事務員なりが、一つの会社に勤めることになつた際、とかく女の人は、最初に自分と話しかけてくれる男子に対して好感を持つようですが、真の立派な男子というのは、決してさようなはしたない事はしないものだといふ事を述べていられます。わたくしはこれは如何にも真をうがつた話だと思ふのであります。実さい真に立派な男性というものは、わかい女性に向つて、初めからそんなに馴れなれしく口を利くものではないのです。新参のわかい女性に対して、最初から馴れなれしく親しげに話しかけるような男子は、やや極端に申せば、必ずある程度、好色性を持つているといつてもよいほどでしょう。

かりにそうまでは言わないにしても、男性として多くはつまらない人間であって、真に高潔な男性というものは、けつして新しくきたわかい女性などに、初めから軽々しく口を利くなどということとはしないものであります。

しかるに近頃のわかい女の人たちには、この辺の事情の分らない人が少なくないようであります。そこで誰一人知人のない不馴れな自分に同情して親切にして下さるあの人は、何と優しい思いやりの深い人かなどと思ひ遣えるのであります。総じて高潔な品性を持ち、真に頼み甲斐ある男性というものは、わかい女性などには、むしろそつげなく感じられて、どこか頼りつきにくい感じのするのが常でしょう。これに反して最初から馴れなれしく親切そうにする男子は、やがてまた新しい女性が現われれば、またその人に近づくという浮薄な移り気の多い男と見てよいでしょう。ですから、もし本人に対して結婚の意志さえ確かめないで、最初から正式に仲人を立てて結婚を申し込むような男性があったとしたら、それこそ真に頼もしい「男の中の男」といつてよく、このような男性こそ、女としては真に自分の一生を托するに足る人物ともいえましよう。かように言われて見れば、わずかに一二の実例によつてさえ、成程とうなずけるような事でも、そうと言われなければそれと分らず、つい蹟く

人の多いのが、現在のわかい女の人たちの実情であります。

以上ほホンの一例を申しただけですが、しかしこういう種類の事柄は、他にも色々あるうと思ひます。それというの若い娘さんが多くの男性の間に身をおいて、純潔に身を持つということは、必ずしも容易でないといえるからであります。突さい女性としては、真に命がけの危険の中に身を曝すようなものとさえ言えるほどでしょう。同時に女性の真の聡明さというものは、こういう場合にこそ、ハッキリと現われるものだと思うのであります。ですから学校の成績がいかにかに優等であろうと、また教育界でいかに才能を認められていようと、この最も大切な一点においてつまずき、あるいはつまずかないまでも、色々と世評に上るようでは、女としては最も愚かな人、もつとも無智なる人と言うべきでしょう。随つてそうした点からは、この菊池氏の「現代娘読本」などは、あなた方のような若い人々を、女性としての聡明さに導く一つの卓れた手引き書であるといえましよう。実はわたくし自身も、あなた方のように、将来女教師とルて世に立つ人々に対して、こうした方面の事柄について、多少とも適切な話をする事が出来たら、これに越す事はないわけですが、前にも申すように、事柄の性質上あまり立入ったことは、教壇の上からは申しにくいという点

もあり、またわたくし自身も、こうした種類の事柄については知識が乏しいのであります。それ故、たまたまこういうものの出ているのを幸い、これによつてこの方面に対する自分の講義の不備を補つて頂けたらと思ひしだいです。あなた方としても、もう子どもではないのですから、自分さえしやんとしていれば、女事務員とか、さらには女給やダンサーなどという人々の生活の一端を知るといふことも、近く女教師として立ち、やがてはまた妻となり母となる人としては、必ずしも無用のことでもないでしょう。

（猪岡 静枝記）

（修身教授録第四卷昭和15年5月発行同志同行社）

## バックボーン考（微言）

森信三

○バックボーンという言葉がジャーナリズムの上に散見し出したのは一体いつごろのことであつたらうか。たぶん昭和二十三年、四年頃のことであつたかと思ふ。一見何でもない一語のようであるが、しかし見逃し難い言葉のひとつである。

○バックボーンとは、いうまでもなく「背骨」という意味である。それをなぜ背骨と言わないで、英語でバックボーンと言ふのであろうか。もし背骨という言葉で物足りないならば、ど性骨という日本語もないわけではないのに……。

○背骨という言葉の代わりに、外国のバックボーンという言葉が使われるのは、背骨と言っただけでは、そこに或る物足りなさが感じられるからであろう。ではなぜ、ど性骨と言わないのであるか。

○ど性骨という言葉のもつ地味な力強さを欲しつつ、しかもそれにつきまとう土臭さを避けるためにバックボーンというような他国語が用いられるのであろう。

○このことは、換言すれば、我が国のインテリ階級の弱さに対する無言の批判をそこに内包するわけである。而してインテリ階級の弱さはその所謂教養と称せられるものが、知性に偏して、意思的鍛錬と励磨とを欠くところから来ているであろう。

われらの祖先はそうした意思的鍛錬を、武士道、乃至は禅によって、受けたが、明治以降の教育は、教養の名によって、そうした意志的鍛錬を喪失した。その結果いわゆるバックボーンの欠除を結果するに至ったのである。

○かくして問題は、現在の日本人には：特に知識階級におけるほど、一般的にはバックボーンの欠如が見られるが、それからばこれに対して如何なる対策を講ずべきかということになると、問題は決して簡単ではない。

○大体から言って、現在八十歳辺りのところに、バック・ボーンの有無の境界線が引かれるのではないかと思う。もちろん

ん個人的例外のあることは言うまでもないが、大観してみても、ほぼそういうことが言えるかと思う。

○では何故バックボーンの有無の境界線が、その辺の年齢層に引かれるのか。それは結局学校教育の結果と言つてよいであらう。すなわち学校教育が普及し徹底するとともに、われわれ日本人からそのバックボーンが失われて行ったというわけである。

○これは真に皮肉な現象である。しかしそれは、いわゆる学校教育にあつては知育の偏重のみがあつて、真の意味における心意の錬磨せられる機会がないからであらう。

○このように我々日本人からバックボーンを奪つた重大な原因が学校教育にあつたとするとき、一つの疑問はそうした学校教育の元祖である西欧諸国では、この問題はどうかになっているかということである。

○おそらく西欧諸国にあつては、学校教育によって生ずるこうした弊害は、われわれ日本民族におけるほどに甚だしくないであらう。而してその原因は主として、その家庭におけるキリスト教信仰の力がこれを補っているからだと思ふ。

○学校教育自体において彼我の間にそれほど根本的な相違は多分ないであらう。したがって問題は、その欠を補うものの有無にかかるとは思ふ。

○この点から見て彼れには、何と云つてもまだキリスト教の信仰が生命をもっているのに対して、われにあっては、仏教が、なまじいにこれと結びついたがために、かえつて形式化して、真に力強く、個人の魂を救われるという人間が少なくなつてきたのである。

○かくして、我らの民族の根本問題は、このバックボーンを持てる人間を、何によつて、また如何にして養成するかにあると言つてよいであらう。

(「開頭」昭和 26 年 11 月号 通巻 53 号)

### あとがきに替えて

敗戦後間もなき時期に、日本人の主体性喪失が問題になっていたとは、驚きだ。それは日本人には自浄能力が高く、自ら立ち止まり、立ち位置を確かめる人々のあつた証左であらう。ほぼ十年ごとに学校の指導指針が文部省のある機関により検討されることにはなつてはいるものの、ここでは民族の宗教問題に鑑み、日本民族が依つて来る武士道や禅の存在意義や価値にも言及されていることは、急激に世の中が変化していった証であらう。幸い日本人はかかる伝統的な精神文化をかなぐり捨て去つたわけではない。(30 日二纂)

〒633-0003  
桜井市朝倉台東 2-538-89  
電話 0744-4513422  
Email: hji3@ken.jp  
http://web1.ken.jp/syushn